

日本プロ野球とメジャーリーグベースボールにおけるGMの比較

スポーツクラブマネジメントコース
5019A307-3 田中 浩康

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 背景と目的

日本のプロスポーツチームでは近年、GM (General Manager=ゼネラルマネージャー) という肩書が多く聞かれるようになってきている。GM とは、クラブやチームにおける CEO (最高経営責任者) のことを示すが、これは欧米、特に

米国のプロスポーツでは必要不可欠な役職で、チームの大きな「戦力」の 1 つとされている。米国プロスポーツチームの運営には、大きく分けて 2 本の柱が挙げられる。1 つが勝利を念頭にチーム強化機能を担う Field Manager (以下、FM)、もう 1 つが収益拡大を念頭にビジネス機能を担う Business Manager (以下、BM) である。この FM と BM を束ねる役職が米国内での GM の役割と言える。

正確な年は不明ではあるものの、1910 年代には既にその職務が、1920 年代にはその肩書が生まれている米国プロ野球 (以下、MLB) と比べると、日本プロ野球 (以下、NPB) では 60 年以上遅れて肩書としての「GM」が生まれた。そして、「GM」と一言と言っても NPB では球団ごとにその経歴や職務内容は多岐に亘っており、制度は確立の途上にある。したがって、日本野球にとって最適な GM のあり方については、今後一層の研究が必要になると考えられる。

米国スポーツにおける GM の職務内容が日本の GM 制度と同じなのか、日本国内のプロチームにおける GM 制度が持つ意味と、各々の経歴や役割、そして最適な GM 像とは何なのか。本研究では NPB 球団と MLB 球団の GM の比較を行うことを目的とする。そして、比較を通じて、日本野球界における GM の理想のありかたを示したい。

2. 先行研究の検討

Wong & Deubert (2010) は、MLB における GM の責任・資格・特徴を分析した。また、MLB 球団の GM の経歴についてもまとめるとともに、主な職務内容を下記の表のように大別して紹介していた。

表 1 GM の主な職務内容

番号	項目	項目詳細
1	ミーティング	・組織が持つ需要と供給の査定 ・トレードの検討 ・他チーム・エージェントとの電話 ・他チームの予算の把握 ・ウィンターミーティング時のアポ取り ・FA選手や他選手の訪問
		・チームとエージェント (選手) によってより良い状況の創出 ・選手がケガや問題等に参加された際にはエージェントと共に問題解決 ・有能なエージェントに対して適応できる能力 ・エージェントとの関係構築 ・選手の今後の活躍の予測 (健康状態、絶頂期の価値、体調等) ・エージェントは選手の年俵を上げようとする一方で、GMは可能な限り下げなくてはならないため交渉力が必要
3	年俵調停	・チーム提示額と選手の要求額に相違がある場合の発言 ・(ヤンキースなどの大手のチームは調停時、統計学の知識を持つ外部専門家雇いプレーヤーマーケットでその選手の価値がどれくらいあるのかを算出してもらう。一方でホワイトソックスなどは自チーム内で完結する) ・最終的決定は組織が決定
4	メディア	・チームを担当する番記者 (新聞・ラジオ) から日々寄せられる質問への対応 ・情報開示のコントロール
5	危機管理	・ケガや犯罪等で逮捕された場合、組織としてすべき対応 ・監督やコーチと相談の上決断 (長寿のケガ、トレード、マイナー送り等)
6	国際マーケット	・ドミニカ共和国、パナマ、ベネズエラ、韓国、中国、日本 ・GMにとって主たる仕事 ・オーナーからの予算内でのチーム編成 ・長期契約をいづかの選手と行うかは、性格・個性、健康状態、年齢、ポジション、気質、市場価値、チーム予算、プレーの安定度等を踏まえて評価する
7	契約	・5年目程度まではGMは関与するがそれ以降の選択には口は出さず多くの場合エリヤスカウトに任せ ・組織が持つシステム (チーム方針) に合う選手を獲得 ・ドラフト後の契約金の基準となる Slot Money の管理・決断
8	ドラフト	・10日間と60日間と7日間 (収容数のみ) ・10日間は、経過をみて延期することが可能 ・60日間のLに登録された選手は、40人待にはカウントされない
9	DL (DL)	・クォーターバックシステムを適用し他チームへの流出を防ぐ ・オプションの年数を考慮しマイナー・メジャーへの降格・昇格の管理 ・選手の在籍期間の把握 ・スプリングトレーニング時に選手の状態を判断
10	クォーターバック	
11	オプション	

この先行研究は MLB の GM 制度の歴史や、経歴・職務内容等の変遷への言及に特化している。また、他国の GM 制度の紹介や比較は行われていない。

他方、日本国内においては、NPB はおろか、日本プロスポーツチームにおける GM の経歴や職務内容を分析した研究は存在していない。

3. 研究方法

調査対象者

- 1) NPB 球団 GM 経験者
- 2) NPB 球団監督経験者
- 3) NPB 球団オーナー経験者
- 4) NPB 球団社長経験者
- 5) NPB 球団代表経験者
- 6) NPB 球団主要幹部経験者
- 7) MLB 球団幹部経験者

調査方法

1. NPB・MLB における GM 経験者、球団要職経験者等へのインタビュー調査

2. 文献調査

分析方法

3. 1 の調査対象者へのインタビューの回答を表にまとめた。また、主に文献・インターネット調査によって、NPB 球団と MLB 球団の GM の経歴を比較する。

4. 結果

表 2 NPB 各球団 現在の GM の年齢・学歴・経歴

2019 年 GM									
リーグ	チーム	氏名	年齢 (歳)	野球経 験	スカウト 経験	職員として 働いた球団数	キャリアスタート	高校	大学・大学院
パ・リーグ	福岡ソフトバンク	三宅利彦	45	なし	×	1	ソフトバンクテレコム株式会社	釜石南高校	東京大学
パ・リーグ	北海道日本ハム	前田 健	55	高校野球	×	3	株式会社日本ハムスポーツ振興社	山口商大	早稲田大学
パ・リーグ	東北楽天	佐井一弘	46	NPB	×	1	ヤクルトスワローズ (選手)	東京学芸大学附属高校	-
パ・リーグ	オリックス	福良洋一	59	NPB	○	2	阪急ブレーブス (選手)	福岡工業高校	-
パ・リーグ	埼玉西武	黒田光雄	54	NPB	×	1	阪友サイゴンズ (選手)	前橋工業高校	-
セ・リーグ	東京ヤクルト	小川隆司	62	NPB	○	1	ヤクルトスワローズ (選手)	習志野高校	中央大学

表 3 MLB・NPB 球団 GM の経歴比較表

リーグ	年	プロ野球 経験者 (人)	野球 未経験者 (人)	スカウト 経験者 (人)	従事した チーム数 (チーム)	野球界で 何年働いて GM になったか (年)	前チームでの GM 経験者 (人)	監督・コーチ 経験者 (人)	平均年齢 (歳)
MLB	1989	13 (50%)	6 (23%)	21 (81%)	3.46	18.97	6 (23%)	-	-
MLB	1999	1 (3%)	2 (7%)	26 (87%)	2.93	16.53	6 (20%)	-	-
MLB	2009	3 (10%)	1 (3%)	27 (90%)	3	15.4	7 (23%)	-	-
MLB	2019	6 (20%)	8 (27%)	-	-	-	8 (27%)	4 (13%)	46.3
NPB	通算	11 (65%)	2 (12%)	3 (18%)	1.41	4.8	2 (11%)	7 (58%)	-
NPB	2019	4 (67%)	1 (17%)	2 (33%)	1.50	6.0	0 (0%)	3 (50%)	53.5

5. 考察

NPB3 球団、MLB2 球団で職員歴のある F 氏へのインタビューを踏まえ、MLB と NPB 球団の GM の役割を比較した。

表 4 MLB・NPB 球団 GM の職務内容の違い

番号	職務内容	米国	日本
1	ミーティング	○	○
2	エージェント	○	○
3	年俸調停	○	○
4	メディア	○	○
5	危機管理	○	○
6	国際マーケット	○	○
7	契約	○	○
8	ドラフト	○	△
9	IL DL)	○	○
10	ウェイパー	○	-
11	オプション	○	-

先行研究に挙げられていた職務内容については、そもそも日本には存在しない制度以外は日米で大差は見られなかった。ただし、MLB 球団には GM 補佐が複数人在籍しており GM を支える組織体制が整えられている。そのため、MLB 球団の GM は上記の中でも統括のみを行う職務がほとんどで、GM 本人が直接担う実務は NPB 球団の方がより多い傾向にあるとの証言を得た。

表 5 MLB・NPB における GM の傾向

項目	MLB	NPB
プロ野球選手経験	20%	67%
野球未経験	27%	17%
スカウト経験	90%	33%
従事したチーム数	3 (※)	1.5
前チームでの GM 経験	27%	0%
野球界での勤務年数	15.4 (※)	6.0
監督・コーチ経験	13%	50%
年齢	46.3 歳	53.5 歳

一方、経歴を見ると、「プロ野球選手経験」「野球未経験」「スカウト経験」「従事したチーム数」「前チームでの GM 経験」「野球界での勤務年数」「監督・コーチ経験」「年齢」の各項目にかなり顕著な差が見られた。

6. 結論

NPB と MLB の GM の職務内容はほぼ変わりはなく、どちらも編成がメインであることがわかった。ただし、MLB 球団には GM 補佐が複数人在籍しており、GM は統括のみを行う職務がほとんどで、GM 本人が直接担う実務は NPB 球団の方がより多い傾向にある。MLB では GM の役割が「チームづくり」と徹底されているため、スカウティングに優れ、編成に長けた人物を登用し、MLB 選手出身である必要はないと考えている。一方で、NPB では元選手を GM とすることが多く、スカウト経験よりも選手経験、さらには監督・コーチ経験が重視されている傾向にあり、選手経験に頼った編成が中心となっている。しかし、近年は NPB 選手経験を持たない GM が登用される動きも出てきた。

日本のスポーツ界においても、新たな価値観を認め、受け入れる土壌ができ、「選手経験がなくとも GM を目指す」という人材が様々な業界・年齢層から増えることを望む。そして、選手経験者もそれにひるむことなく「選手経験を活かして GM を目指す」と志を高く持ち、これまではあまり GM 界の競争相手とみなされてこなかった非選手経験者と切磋琢磨することで、NPB 全体が一層活性化することを期待したい。